

東京大学附属図書館概要



[2022/2023]

表紙：『松乃栄』（総合図書館所蔵：東京大学五十年史資料の内）

『松乃栄（まつのさかえ）』は「旧幕府の姫君加州家へ御輿入の図」という副題を持つ資料で、総合図書館の貴重図書として所蔵されています。

この資料は、文政10（1827）年に徳川第11代将軍家斉の第21女・溶姫が加賀藩第13代藩主前田斉泰に輿入れしたときの様子を、三代歌川国貞が想像を交えて描いた錦絵です。東京大学のシンボルの一つである「赤門」は、このとき溶姫を迎えるため建立されたもので、白無垢の花嫁衣裳に身を包んだ溶姫が、豪華な行列を従えて赤門をくぐる図は当時の華やかさを今に伝えています。

もっとも、この資料は明治22（1889）年に描かれたもので、この年は徳川家康が江戸へ入府した天正18（1590）年から数えて三百年に当たり、東京開市三百年祭が営まれた年であったため、溶姫の輿入れが描かれたと考えられます。東京大学にとっては、赤門の由来を伝える貴重な絵画史料と言えます。

館長あいさつ

東京大学附属図書館は2010（平成22）年に新図書館計画の検討を開始し、新たな学習・教育・研究の拠点を形成する事業として進められ、2020（令和2）年に完了しました。図書館前広場の地下には、総合図書館別館が2017年に竣工し、能動的な学習、学術的な交流のためのライブラリープラザと、本学創設以来140年あまりにわたって収集・利用してきた貴重な学術研究資料を、永く後世が利用することを可能にする自動



書庫を新設しました。また、本館は、2020年にアジア研究に関する資料を集中化し、各国の研究者が集う世界最高水準のアジア研究図書館を館内に開設しました。さらに内装を創建当時のデザインに一部復元し、図書館の歴史性を継承すると同時に、耐震措置も施され、より厳かに、より安全になりました。本館・別館をあわせた新たな知の拠点として、学習・教育・研究を支援していきます。

さて、東京大学附属図書館の歴史をひもとくと、1923（大正12）年の関東大震災によって煉瓦造りの建物は全焼し、それまでに蒐集された和漢洋の貴重な資料の多くは灰燼に帰しました。国内外の支援を受けて1928（昭和3）年に現在の総合図書館が再建されてから、約90年の時間が経過したところです。

この間、全学における学習・教育および研究活動を支援する使命は変わらないものの、附属図書館に求められる役割や機能は大学の発展や社会環境と共に変化し、そして多様化しています。これまで附属図書館では、基盤的な学術情報を安定的に整備するため、学術雑誌・電子ジャーナル等購入経費の全学共通経費化を実現し、また、学習・教育に資する学生用図書の実用にも努めてきました。さらに、本学で創出される世界水準の研究成果を国内外に広く発信し、社会に還元するために、学術機関リポジトリ「UTokyo Repository」を構築・運営し、学術論文等の公開・オープンアクセス化にも力を入れています。

また、東京大学が保有する学術資産を電子化し、発信するデジタルアーカイブズ構築事業を進めています。学術の多様性を支える基盤の強化を目指して、全学の部局と連携してデジタルアーカイブを構築することにより、時と場所を選ばず本学の豊かな学術資産にアクセスできる環境を整えることに力を注いでいます。

現在は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、図書館としても様々な方策を講じていますが、これを機に開発・整備した体制を、Post-Coronaの時代にも図書館の基本サービスとして機能させていくことを模索しているところです。

東京大学附属図書館は総合図書館、駒場図書館、柏図書館の拠点図書館と、様々な学問分野を基礎とする27の部局図書館から構成されています。各館それぞれが特色を活かしながら「共働する一つのシステム」としてさらに連携・協力を進め、知の協創の世界拠点を形作ろうとする東京大学の取り組みの支えとなるよう、努力して参りたいと存じます。利用者の皆様には図書館を活用いただくとともに、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東京大学附属図書館長
坂井 修一

東京大学は、東京大学附属図書館を、学習、教育及び研究のために不可欠な全学組織として設置し、人類の知的遺産の収集、保存、整理及び新たに創出される学知の世界への発信の拠点とする。

この務めを果たすべく、東京大学附属図書館は、本学における学習、教育及び研究活動を支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、わが国における学知の収集、保存及び発信の中心の一つとして、全国の学術研究基盤の充実に貢献し、更に国際的な連携・協力のセンターとして、世界の学術機関との学術情報交流を行なうことにより、世界の学術コミュニティに奉仕する。

東京大学附属図書館の使命

- 1 東京大学附属図書館は、学習支援機能、研究支援機能及び保存機能を併せ持つ。総合図書館、駒場図書館、柏図書館は、本学の全ての学生に対して学習、総合的教養修得及び知的人格形成の場を提供し、もって各キャンパスにおける学習支援機能の中心的な担い手となる。部局図書館は、主に、本学における研究を支援するとともに、各部局の特性に応じて学習支援機能をも担う。
- 2 東京大学附属図書館は、本学における学習、教育及び研究の発展のために必要な各種の学術情報を収集、保存、整理し、資料の性質に応じて可能な限り広く本学内外の利用に供するとともに、所蔵する人類の貴重な知的遺産を責任をもって次の世代に伝える。
- 3 東京大学附属図書館は、本学の全ての学生に対し、学習及び教養修得のために必要な各種の学術情報を提供し、それを有効に活用しうるための施設、設備、スタッフ及び情報を整備する。
- 4 東京大学附属図書館は、増大する世界の学術情報を本学の全ての構成員が共有し、有効に活用しうるよう、専門的能力の向上及び情報システムの高度化のために不断の努力を行なう。
- 5 東京大学附属図書館は、蓄積された各種の学術情報と、それを有効に活用するための専門的知識を、適切な形で国内外に向けて発信する。

(目的)

第1条 この規則は、東京大学基本組織規則に定めのあるもののほか、「共働する一つのシステム」としての附属図書館が、その図書館機能の有効な活用と発展を図ることにより、大学における研究及び教育に対する使命を十分に果せるようにするため、その性格と組織に関し必要な基本的事項を定めることを目的とする。

(附属図書館)

第2条 附属図書館は、次の図書館からなる。

- (1) 総合図書館
- (2) 駒場図書館
- (3) 柏図書館
- (4) 部局図書館

(商議会の議)

第3条 附属図書館に関する重要事項については、東京大学図書行政商議会(以下「商議会」という。)の議を経るものとする。

- 2 商議会の組織及び運営については、別に定める。

(附属図書館長)

第4条 附属図書館長の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 附属図書館長は、東京大学附属図書館に属する図書館資料の効果的な利用のための総合的運用の任にあたる。
- 3 附属図書館長は、総合図書館、駒場図書館、柏図書館を掌理する。

(附属図書館副館長)

第4条の2 附属図書館に、附属図書館副館長(以下「副館長」という。)1名を置く。

- 2 副館長は、大学の教職員のうちから、附属図書館長が指名する。
- 3 副館長の任期は、指名した附属図書館長の在任期間を超えないものとする。ただし、再任を妨げない。
- 4 副館長は、附属図書館長を補佐し、附属図書館長に事故あるときは、その職務を代行する。

(研究部門)

第4条の3 附属図書館に、研究部門を置くことができる。

- 2 前項の研究部門の教員を選考する場合は、東京大学基本組織規則第9条第5項の規定の適用に関して、商議会を教授会とみなす。
- 3 研究部門の組織については、別に定める。

第5条 削除

(総合図書館)

第6条 本郷キャンパスに、総合図書館を置く。

- 2 総合図書館に、館長を置く。

- 3 前項の館長は、附属図書館長がこれを兼ねる。

- 4 前2項のほか、総合図書館の組織及び運営については、別に定める。

(駒場図書館)

第7条 駒場キャンパスに、駒場図書館を置く。

- 2 駒場図書館に、館長を置く。

- 3 前項のほか、駒場図書館の組織及び運営については、別に定める。

(柏図書館)

第8条 柏キャンパスに、柏図書館を置く。

- 2 柏図書館に、館長を置く。

- 3 前項のほか、柏図書館の組織及び運営については、別に定める。

(部局図書館)

第9条 教育研究部局または全学センター(以下「教育研究部局等」という。)に置かれている図書館のうち、附属図書館に属するものを、部局図書館とする。

- 2 総長は、1若しくは2以上の教育研究部局等、教育研究部局等附属の1若しくは2以上の教育施設、研究施設、又は1若しくは2以上の学科、教室に置かれている図書館を、その属する教育研究部局等の申し出により、商議会の議を経て部局図書館とすることができる。

- 3 総長は、前項に準ずる手続により、2以上の部局図書館を統合し、又は部局図書館を廃止することができる。

- 4 部局図書館の管理及び運営は、当該教育研究部局等がその定めるところによりこれを行う。

(図書館相互の協力)

第10条 総合図書館、駒場図書館、柏図書館及び部局図書館との間、並びに各部局図書館相互の間では、図書館資料の運用について協力するものとする。

(規則の改廃)

第11条 この規則の改廃は、教育研究評議会の審議を経て、これを行う。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 東京大学附属図書館基本規則(昭和38年9月17日制定)は、廃止する。

附則 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成25年11月28日から施行する。

附則 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

東京大学附属図書館について

東京大学には本郷キャンパスの総合図書館、駒場キャンパスの駒場図書館（大学院総合文化研究科図書館の機能を併せ持つ）、柏キャンパスの柏図書館という3つの拠点図書館があります。また学部・研究科や研究所等に設置されている部局図書館が27館・室あり、これらを総称して「東京大学附属図書館」といいます。

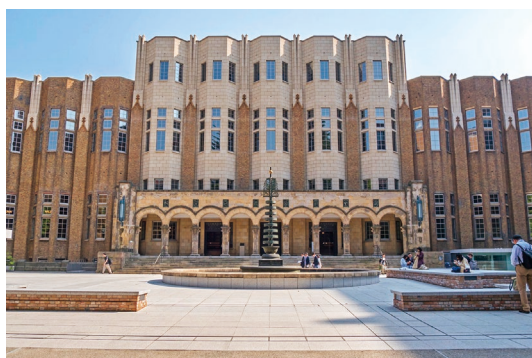
多数の図書館・室からなる附属図書館は、「共働する一つのシステム」であることを理念に掲げ、東京大学における学習・教育・研究活動を多面的にサポートしています。

本郷キャンパス

〈拠点図書館〉総合図書館 <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general>

総合図書館は歴史的に貴重な資料から最新資料までを幅広く所蔵しており、蔵書数や年間受入雑誌数等も附属図書館の中では最大規模です。

2020（令和2）年度に、約10年に及ぶ耐震改修工事が完了し、新たな知の拠点として、学習・教育・研究を支援する機能の充実を図っています。



総合図書館 本館

本郷キャンパスの部局図書館

- 法学部研究室図書室
- 大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター（明治新聞雑誌文庫）
- 医学図書館
- 工学・情報理工学図書館
 - 工1号館図書室 A（社会基盤学）
 - 工1号館図書室 B（建築学）
 - 工2号館図書室（機械系、精密工学、電気系、総合研究機構）
 - 工3号館図書室（システム創成学、原子力国際、技術経営戦略学、原子力、化学・生命系）
 - 工4号館図書室（マテリアル工学）
 - 工5号館図書室（化学・生命系、バイオエンジニアリング）
 - 工6号館図書室（物理工学、計数工学、数理情報学、システム情報学、創造情報学）
 - 工7号館図書室（航空宇宙工学）
 - 工14号館図書室（都市工学）
 - 理7号館図書室（コンピュータ科学）
- 大学院人文社会系研究科・文学部図書室
- 理学図書館
- 農学生命科学図書館
- 経済学図書館
- 大学院教育学研究科・教育学部図書室
- 薬学図書館
- 大学院情報学環・学際情報学府図書室
- 大学院情報学環附属社会情報研究資料センター
- 地震研究所図書室
- 東洋文化研究所図書室
- 社会科学研究所図書室
- 史料編纂所図書室
- 総合研究博物館図書室



農学生命科学図書館



社会科学研究所図書室

駒場キャンパス

〈拠点図書館〉 駒場図書館

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba>

駒場図書館は2002（平成14）年10月に開館し、前期課程の学生にとって中心的な図書館となっています。

自然光を採り入れた光廊下と開放的なラウンジが特徴の館内には、幅広い分野にわたる蔵書約70万冊と約1,100席の閲覧席を備えています。

駒場キャンパスの部局図書館

- 大学院総合文化研究科図書館
- 大学院総合文化研究科自然科学図書室
- 大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構アメリカ太平洋地域研究センター図書室
- 大学院数理科学研究科図書室
- 生産技術研究所図書室
- 先端科学技術研究センター図書室



駒場図書館



先端科学技術研究センター図書室
撮影：宇戸 浩二

柏キャンパス

〈拠点図書館〉 柏図書館

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/kashiwa>

柏図書館は2005（平成17）年に開館し、蔵書数約47万冊のほか自然科学分野の雑誌のバックナンバーを集中的に収納する自動書庫を併設しています。館内のコミュニティサロンやメディアホール等の設備とあわせ、柏キャンパスの学生・教職員はもとより、学内の図書館ネットワークを通して全学へのサービスを行うとともに、友の会などを通じた地域社会との連携にも積極的に取り組む開かれた図書館です。

柏キャンパスの部局図書館

- 宇宙線研究所図書室
- 物性研究所図書室
- 大気海洋研究所図書室



柏図書館



物性研究所図書室

白金台キャンパス

白金台キャンパスの部局図書館

- 医科学研究所図書室

各図書館・室の利用案内や開館日・開館時間などは、附属図書館ウェブサイトの「図書館一覧」をご覧ください。

東大 図書館一覧



<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/guide>

新型コロナウイルス感染拡大防止対策

附属図書館では「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」や各部局の方針に基づき、新たな教育・研究のスタイルに応じたサービスのあり方を模索しています。



総合図書館



総合図書館



総合図書館

2020年4月の緊急事態宣言とこれに伴う東京大学の活動指針レベルの上昇に併せて、各図書館・室は閉館となりましたが、資料・複写物の郵送サービスや電子リソースの拡充・提供を行い、サービスを止めないよう努めました。

また、開館中は安心して図書館を使っていただくために、カウンターへのアクリルパネル設置、施設内の換気の徹底、定期的な清掃等を行っています。なお、ご来館の際は、マスクの着用、入口での手指消毒、間隔を空けての座席の利用等へのご協力をお願いしています。



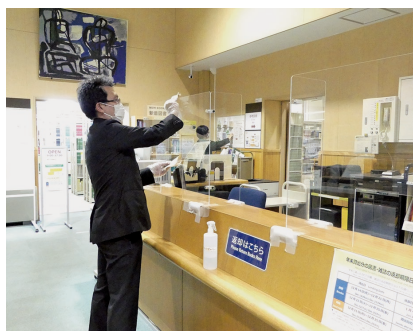
駒場図書館



駒場図書館



柏図書館



農学生命科学図書館



理学図書館



工学・情報理工学図書館
(工6号館図書室)

図書館システムリプレイス&学術情報リテラシーのポータルサイトのリニューアル

2021年8月に図書館システムのリプレイスを行いました。このリプレイスで、OPACからの電子リソースの検索が可能になりました。また、画面のサイズに合わせてレイアウトが最適化されるようになり、スマートフォンやタブレットでも使いやすくなっています。



https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/opac_search/



リニューアルした OPAC

また、データベース検索を含む学術情報リテラシーのポータルサイトを一新し「Literacy」サイトを開設しました。文献検索の方法・文献管理ツールの使い方・講習会の情報・レポートや論文を作成するために必要な情報などをまとめています。同時に変更となった、学外からのデータベースへのアクセス方法(EZproxy)についても詳しく紹介しています。



<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/literacy>



Literacy サイト

アジア研究図書館研究開発部門設置

2021年4月1日にアジア研究図書館研究開発部門 (Research Advancement Section for the Asian Research Library, 略称 RASARL) が設置されました。アジア分野における世界最高の教育研究を支える環境整備に向け、配置された3名の専任の教員を中心に、アジア研究者への研究支援ならびに蔵書構築等のアジア研究図書館運営を行い、サブジェクト・ライブラリアン制度の確立と普及を目指しています。



主なコレクション・文庫

各図書館・室が所蔵する主なコレクション・文庫をご紹介します。

- 資料の利用については、各図書館・室に直接お問い合わせください。
- 附属図書館ウェブサイトでは、ここには掲載されていないコレクション・文庫も数多く紹介しています。

附属図書館ウェブサイト > 図書館概要 > コレクション紹介

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/all_collection

文庫名	点数	文庫概要
総合図書館		
鷗外文庫	約18,800 (冊数)	森鷗外(1862-1922)の旧蔵書。歴史、文学書を中心とし、伝記や江戸古地図の他、ドイツ留学中に収集したと思われる洋書など。
霞亭文庫	1,851	小説家である渡辺霞亭(1864-1926)が収集した江戸時代の小説類と演劇書など。
洒竹文庫／竹冷文庫／知十文庫	6,577	俳人の大野洒竹(1872-1913)、角田竹冷(1857-1919)、岡野知十(1860-1932)それぞれが収集した連歌俳諧書。
青洲文庫	約25,000	甲州の素封家であった渡辺家の壽・信(青洲)・澤次郎の三代にわたる、主に漢籍・国文学関係書からなる旧蔵書。伊藤博文の揮毫による額も残されている。
南葵文庫	約96,000	紀州徳川家の旧蔵書であり、様々な個人文庫の集積ともいえる。徳川慶喜の揮毫による額も残されている。
田中芳明文庫	約6,000	明治期の博物学者、男爵である田中芳男(1838-1916)の収集した博物学及び博覧会関係資料など。
駒場図書館		
狩野亨吉文書	約20,000	旧制第一高等学校長であった狩野亨吉(1865-1942)の日記・来翰など。
木谷文庫	157	演劇・浄瑠璃研究家の木谷蓬吟(1877-1950)旧蔵の幕末・明治期の浄瑠璃関係史料、日記・書簡・書画など。
大日本海志編纂資料	820	明治期に、日本海志の編纂を企図して海軍省が収集した近世の水軍書・造船資料など。
柏図書館		
平賀文書	約40,000	海軍造船官、第13代東京帝国大学総長であった平賀讓(1878-1943)の遺した艦艇計画・建造関係の技術資料など。
法学部研究室図書室・明治新聞雑誌文庫		
吉野文庫	8,716	大正期の政治学者で、法学部教授でもあった吉野作造(1878-1933)の旧蔵書。
宮武外骨関係資料	約800	明治新聞雑誌文庫の創始者である宮武外骨(1867-1955)に係わる新聞・雑誌・絵葉書など。
医学図書館		
ワルダイエル文庫	約2,000	ドイツの解剖学者であるワルダイエル(Wilhelm von Waldeyer-Hartz, 1836-1921)の旧蔵書。
呉秀三文庫	約190	精神医学者であり、医学部名誉教授でもある呉秀三(1865-1932)の旧蔵書。

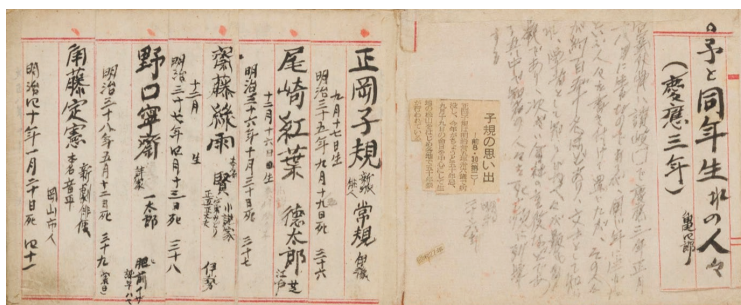


「犬追物圖説」南葵文庫（総合図書館）



「船の模型を見る平賀讓」平賀文書（柏図書館）

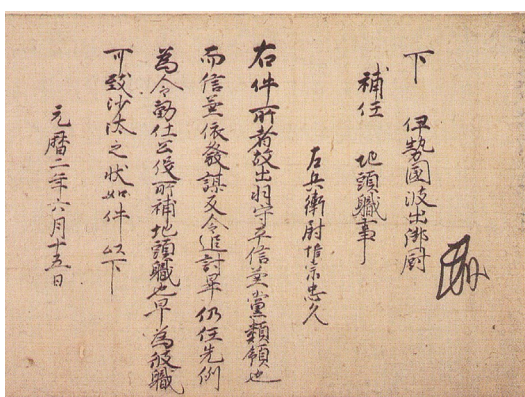
文庫名	点数	文庫概要
大学院人文社会系研究科・文学部図書室		
本居文庫	3,534	本居宣長(1730-1801)及びその子孫・門下の自筆本・写本など。
市河文庫	約1,200	文学部教授であった市河三喜(1886-1970)旧蔵の、19世紀末から20世紀初頭の英語学・言語学関係論文など。
経済学図書館／経済学部資料室		
アダム・スミス文庫	319	アダム・スミス(Adam Smith, 1723-1790)の旧蔵書。
エンゲル文庫	1,219	ドイツの統計学者であるエンゲル(Ernst Engel, 1821-1896)の旧蔵書。
情報学環・学際情報学府図書室		
小野秀雄コレクション	4,751	前身の新聞研究所の実質的な創設者である小野秀雄(1885-1977)が収集したかわら版、新聞錦絵、号外など。
東洋文化研究所図書室		
大木文庫	3,168	北京在留の弁護士であった大木幹一より寄贈された中国法制関係資料。
ダイバー・コレクション	487	ドイツのイスラーム研究者であるハンス・ダイバー(1942-)が収集したイスラーム関係の写本など。
社会科学研究所図書室		
糸井文庫	10,500	東京職業紹介所長等を歴任した糸井謹治(1895-1959)が収集した日本労働事情関係資料など。
極東国際軍事裁判記録	454	極東国際軍事裁判に関連する公判・弁護関係の資料。
史料編纂所図書室		
島津家文書	約9,500	[国宝]平安時代より江戸時代に至る薩摩藩島津家重代相伝の文書群。
宗家史料	約3,000	対馬宗家の江戸藩邸に伝来した史料。
裏松家史料	約940	江戸時代後期の故実家、裏松固禅(1736-1804)関連の史料。



「予と同年生の人々」宮武外骨関係資料(明治新聞雑誌文庫)



アダム・スミス文庫(経済学図書館)



「歴代亀鑑 源頼朝下文」島津家文書(史料編纂所図書室)

コレクション・文庫の一部はデジタル化され、インターネット上で公開されています。

附属図書館ウェブサイトの「コレクション」からご覧ください。

附属図書館ウェブサイト > コレクション
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/collection>



東京大学学術資産等アーカイブズポータル <https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/>

学内の様々な部局が個別にデジタル化し公開してきたデジタルコレクションを、横断的に資料単位で検索することができます。

歴代館長

氏名	所属部局	任期
末岡 精一	文学部準講師	1881.8.5 —
田中 稻城	文学部準講師	1882.3.4 — 1882.7.22
谷田部梅吉	理学士	1882.7.22 — 1883.12.11
松井 直吉	理学部教授	1883.12.13 — 1885.11
木下 廣次	法科大学教授	1886.3.9 — 1889.10.23
宮崎道三郎	法科大学教授	1889.10.23 — 1890.3.24
田中 稻城	文科大学教授	1890.3.24 — 1893.9.6
和田 萬吉	文科大学教授	1893.11.7 — 1923.11.29
姉崎 正治	文学部教授	1923.11.29 — 1934.3.30
高柳 賢三	法学部教授	1934.3.31 — 1940.6.14
市河 三喜	文学部教授	1940.6.15 — 1946.10.4
高木 八尺	法学部教授	1946.10.5 — 1950.3.30
高木 貞二	文学部教授	1950.3.31 — 1953.4.9
末延 三次	法学部教授	1953.4.10 — 1960.3.31
岸本 英夫	文学部教授	1960.4.1 — 1964.1.25
伊藤四十二	薬学部教授	1964.1.26 — 1969.3.31
松田 智雄	経済学部教授	1969.4.1 — 1972.3.31
今井 功	理学部教授	1972.4.1 — 1975.3.31
安藤 良雄	経済学部教授	1975.4.1 — 1978.3.31
藤原 鎮男	理学部教授	1978.4.1 — 1981.3.31
裏田 武夫	教育学部教授	1981.4.1 — 1985.3.31
山崎 弘郎	工学部教授	1985.4.1 — 1988.3.31
黒田 晴雄	理学部教授	1988.4.1 — 1991.3.31
清水 忠雄	理学部教授	1991.4.1 — 1994.3.31
開原 成允	医学部教授	1994.4.1 — 1996.3.31
六本 佳平	大学院法学政治学研究科教授	1996.4.1 — 1999.3.31
落合卓四郎	大学院数理科学研究科教授	1999.4.1 — 2002.3.31
廣渡 清吾	社会科学研究所教授	2002.4.1 — 2003.3.31
小宮山 宏	大学院工学系研究科教授	2003.4.1 — 2005.3.31
西郷 和彦	大学院工学系研究科教授	2005.4.1 — 2009.3.31
古田 元夫	大学院総合文化研究科教授	2009.4.1 — 2015.3.31
久留島典子	史料編纂所教授	2015.4.1 — 2018.3.31
熊野 純彦	大学院人文社会系研究科教授	2018.4.1 — 2021.3.31
坂井 修一	大学院情報理工学系研究科教授	2021.4.1 —

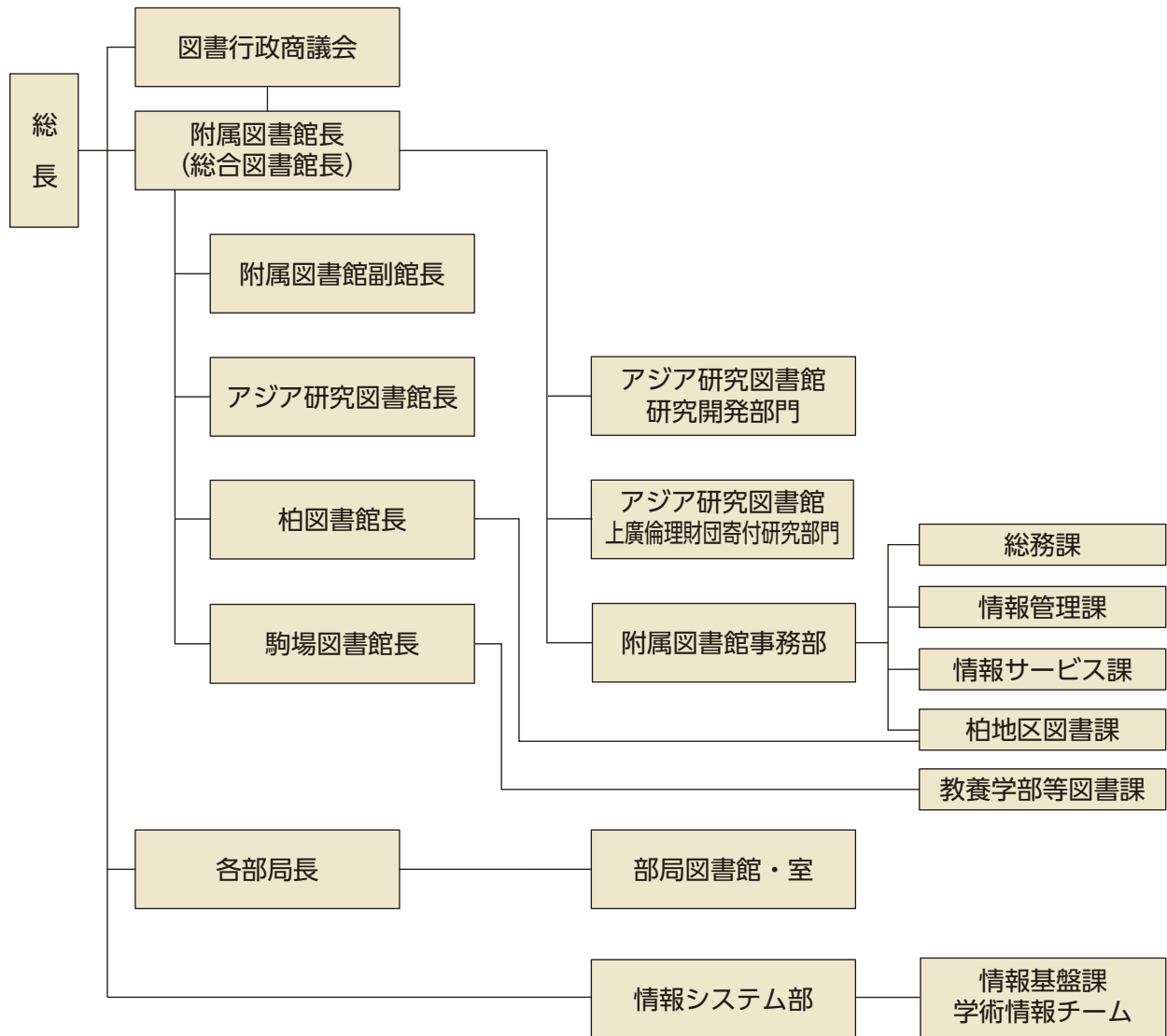


旧図書館



旧図書館（内観）

附属図書館組織図



関東大震災後、臨時に設置された仮閲覧室



震災後の再建工事の様子

沿革

西暦(和暦)	月	取り組み等
1877(明10)	4月	東京大学創設(法・理・文・医学部)
	10月	法・理・文三学部(一ツ橋)図書館の設置、図書館規則の制定
1881(明14)	6月	東京大学職制の改正、同時に四学部図書館規則を「東京大学図書館規則」として統合
1886(明19)	3月	「帝国大学令」公布、「東京大学図書館」を「帝国大学図書館」と改称
1892(明25)	8月	図書館新築落成
1897(明30)	6月	「帝国大学図書館」を「東京帝国大学附属図書館」と改称、「館長」職制制定
1899(明32)	2月	「図書館商議会」設置、同規程制定
1918(大7)	9月	「東京帝国大学附属図書館規則」改正。本館管理の下、部局、各教室・学科研究室にも図書を備え付け
1923(大12)	9月	関東大震災、附属図書館炎上全壊、蔵書喪失、国際連盟で復興援助の決議
1924(大13)	6月	帝国大学附属図書館協議会創設
	12月	ロックフェラー Jr.より図書館再建資金400万円受贈
1928(昭3)	12月	新図書館完成。(12月1日を開館記念日とする)
1950(昭25)	3月	「図書館商議会」を「図書行政商議会」と改称
1961(昭36)	4月	図書館に部課制実施
	5月	岸本館長「附属図書館改善計画案」発表
	9月	ロックフェラー財団より図書館機能近代化資金8,400万円受贈、改装工事開始(1964年3月完了)
	11月	全学総合目録の編成作業開始
1962(昭37)	10月	図書館報『図書館の窓』創刊
1963(昭38)	9月	「東京大学附属図書館基本規則」制定(「本館」を「総合図書館」と改称し、附属図書館は、総合図書館と部局図書館からなることを規定)
1965(昭40)	7月	総合図書館、国連の寄託図書館となる
1968(昭43)	11月	東大紛争のため総合図書館閉鎖(翌年2月まで)
1969(昭44)	3月	外国雑誌一括購入業務の開始
1982(昭57)	1月	裏田館長「東京大学総合図書館改善計画試案」発表(1984年より改修工事着工)
1986(昭61)	5月	附属図書館電算化システム稼働開始
	6月	OPAC(利用者用オンライン目録)サービス開始
1987(昭62)	4月	総合目録(洋書)遡及入力開始(-1990年3月:第1期)
		バックナンバーセンター設置
1988(昭63)	4月	共同利用図書購入費の学内措置開始
1992(平4)	4月	学術情報センターのNACSIS-ILLシステムに参加
1993(平5)	1月	UTnet(学内LAN)によるOPACサービス開始(インターネットへのOPAC公開)
1995(平7)	9月	遡及入力10年計画開始(第II期)
	10月	WWWサーバによる図書館ホームページの開設
1996(平8)	11月	東京大学学位論文論題データベースサービス開始
1997(平9)	1月	附属図書館電子化事業開始(霞亭文庫の電子化)
	6月	本郷・駒場キャンパス図書館(室)間相互貸借のための集配サービス(キャンパスローン)開始
1999(平11)	4月	大型計算機センター、教育用計算機センター、附属図書館の一部を統合し、情報基盤センター発足
	10月	Webブラウザに対応したOPACシステム(Web OPAC)の公開
2000(平12)	4月	電子ジャーナル導入試行実験開始
	10月	総合図書館開架図書の分類変更開始(2002年8月完了)
2001(平13)	3月	Webリクエストサービスを開始
2002(平14)	10月	駒場図書館の開館
2004(平16)	3月	「東京大学附属図書館基本規則」の新たな制定(附属図書館は、総合図書館・駒場図書館・柏図書館・部局図書館からなることを規定し、運営原則を「共働する一つのシステム」とすることを明記)
	5月	全学資料購入集中処理システム暫定スタート(12月より本格運用)

西暦(和暦)	月	取り組み等
2005(平17)	2月	柏図書館正式開館・自然科学系雑誌バックナンバーセンター設置(2004年5月より部分開館)
	3月	e-DDSサービスの開始、ASKサービスの試行開始(2006年8月より正式運用)
	4月	キャンパス間返却サービス開始
	10月	遡及入力10年計画開始(第II期)
2006(平18)	4月	東京大学学術機関リポジトリ(UT Repository)公開
	9月	MyLibraryサービス開始
2007(平19)	4月	全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備開始(第I期)
	11月	UT Article Search, UT Article Linkサービス開始
2008(平20)	4月	全学学生用図書費の恒常化
	10月	全学資料購入集中処理システム(第2ステージ)開始
	12月	総合図書館再建80周年記念式典、記念プレート除幕式、記念講演会開催
2009(平21)	12月	総合図書館棟ポーチ外灯復元記念披露及び点灯式 図書館間返送管理システム「楽返くん」が2009年度業務改善総長賞を受賞
2010(平22)	5月	キャンパスローンサービスの対象を拡大し、学部学生も利用可能に
	10月	新図書館計画の検討開始
2011(平23)	3月	MyOPACサービス開始 新図書館構想推進委員会が発足
	4月	全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備開始(第II期)
2013(平25)	3月	新図書館計画・総合図書館別館建設に向けた準備工事に着手
	6月	総合図書館及び東京大学史史料室所蔵「東京大学史関係資料」の重要文化財指定
	12月	図書館引越作業効率化ツール『図書館ひっこしららくらくキット』が2013年度業務改善総長賞を受賞(2015年度国立大学図書館協会賞も受賞)
2014(平26)	4月	TREEサービス開始 アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門(U-PARL)設立
	12月	新図書館計画・総合図書館別館本工事に着手
	12月	明治新聞雑誌文庫所蔵資料データベース『明探』が2015年度業務改革特別賞を受賞
2016(平28)	4月	全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備開始(第III期)
2017(平29)	7月	総合図書館別館ライブラリープラザ開館
2018(平30)	5月	総合図書館別館自動書庫の運用開始
	10月	総合図書館別館ライブラリープラザのリニューアルオープン
2020(令2)	10月	アジア研究図書館開館
	11月	総合図書館グランドオープン
2021(令3)	4月	アジア研究図書館研究開発部門設置 全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備開始(第IV期)



再建された総合図書館(1928年頃)



1965年頃の総合図書館



東京大学附属図書館

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

kikaku@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp>